震災ニモマケズ―見よ！ 東北の底力

東北文化学園　復興支援フォーラム ――明日を拓く原動力――

企画・制作 河北新報社営業本部

「震災ニモマケズ―見よ！東北の底力」をテーマに、東北文化学園復興支援フォーラムが9月23日、仙台市青葉区の江陽グランドホテルで開かれた。作家の高橋克彦氏が「和の心」と題して講演した後、歌手のさとう宗幸氏が、被災地支援の歌と語りで会場を盛り上げた。休憩後のパネルディスカッションでは同校教授ら4氏が被災地復興への課題について意見を交換。情報発信や広域連携の重要性などを訴えた。来場した約500人の学生や市民は復興へのメッセージを受け止め、それぞれの立場で明日に進むべき道を探った。

「震災ニモマケズ―見よ！東北の底力」をテーマに復興への道筋を探ったフォーラムには、学生や市民ら約500人が参加した

【開会のあいさつ】

学校法人東北文化学園大学理事長　小山　昭夫氏

東北文化学園フォーラムは今回で10回目の開催となりますが、昨年に引き続き、東日本大震災の被災地復興をテーマに掲げました。

歴史を振り返ると、これまでにも大地震の記録があり、先人たちは互いに生活を支え合って乗り越えてきました。私たちは今、被災された方々をどのように励まし、援護していくべきでしょうか。復興はこの先長期にわたりますが、これからは心や精神の問題が必ずかかわってきます。そこで今回は著名な作家のお話やトークショーも企画しました。明日の糧としていただければ幸いです。

基調講演　和の心

直木賞作家　高橋　克彦氏

直木賞作家でNHK大河ドラマの原作も手掛けた高橋克彦氏が「和の心」と題し基調講演を行った。その要旨を紹介する。聞き手は東北文化学園大学医療福祉学部保健福祉学科教授の加藤由美氏。

◆

東北人のルーツは出雲であり、その人たちは「和の民」であった。私たちは自分は日本人だと言っているが、根底には、自分たちのルーツは和の民だという意識を持ち続けてきたと思う。それは、和食、和室、和裁など、昔から日本にある伝統的なものに対し「和」という言葉を使っていることで証明される。和とは何か。辞書で和の付く言葉を追いかけてみるとよく分かる。平和、温和、柔和…。食べ物を和（あ）えるといった使い方もある。

縄文時代のストーンサークル（環状列石）は古代人のお墓と言われているが、実際は古代人たちの一種の守りとして作られた。その環（わ）が、和の民の原点と考えられる。

手を握り合った人々が環を作ったとき、それぞれの思いが一つになって中心に向かって行き、そこで新たな思いが立体化され、空に放たれる。互いに手をつなぎ、人のことを思いやる。そこには始まりも終わりもなければ上下もない。それが和の心の基本である。

これは、特に東北人の心の奥底にしまわれた、大事な宝であるということを認識していただきたい。

東北人の精神　復興に不可欠

◇

私は20年ぐらい前から蝦夷について調べ、小説を書いてきた。今の東北の人、特に若い人たちの中に気概や強さのようなものを全く感じられなくなり、なげかわしく思ったことが、書く原動力となった。

しかし、東日本大震災後の避難所で、両親を亡くした子どもが「僕よりもつらい人のために頑張る」と言ったり、90歳ぐらいのおばあさんが薄い毛布にくるまりながら「みんなが良くしてくれるので、自分も何かしなければいけない」と言ったりして、世界の人を泣かせた。失われたと思っていた和の心は残っていた。その宝はこれまで大事に至らなかったから輝いていなかっただけで、東北人一人一人の中に埋め込まれていたのだと、気付かされた。

物書きの仕事は孤独だ。僕は震災以降1年ぐらい、ほとんど小説を書けなかった。苦しんでいる人たちがたくさんいる中で、自分一人だけが関係のない小説を書くのは申し訳ない気がした。震災と向き合った小説を書くには、盛岡在住の僕は真実を知らないという不安もあった。どちらも書けないまま、被災した人たちの言葉を目にしたりしているうち、「自分は一人ではないんだ」という思いを、この年になって初めて実感した。これから先、東北人の和の心が必要とされる時代になっていくと思う。

聞き手・加藤由美氏（東北文化学園大学医療福祉学部保健福祉学科教授）

トークショー

震災復興へのメッセージ

歌手　さとう宗幸氏

さとう宗幸さんのトークショーは、北原謙二さんが歌ってヒットした「ふるさとの話をしよう」で始まった。全国各地で開かれる被災地支援コンサートに招かれたとき、次のようなメッセージを添えて、必ず1曲目に歌うことにしているという。

「僕たちの古里は姿を変えてしまいました。古里の話をしたくとも、今お話するものは何もありません。どうぞ皆さん、自分の古里を懐しみ、古里の話をいっぱいしてください」

続いて「水仙華」をしみじみ歌いあげた。天皇、皇后両陛下が宮城野区の避難所を訪問された際、被災した主婦が津波で流された自宅跡に咲いたスイセンを皇后陛下に贈った様子は、ニュースとして報道された。その後、羽田空港で飛行機から降りる皇后陛下がテレビに映し出されたが、その手には、主婦が贈ったスイセンが握られていた。その姿に感動して書かれた詩に、さとうさんが曲をつけたのが「水仙華」だった。

おなじみの「青葉城恋唄」の熱唱に続き、友人から聞いた震災直後の福島でのエピソードを語った。一つの弁当を前に言い争いをしている初老の二人を見た自衛隊員が、自分のおにぎりを差し出して喧嘩をしないよう声を掛けたという。しかし真相は違っていた。「俺は腹いっぱいだから、おまえ持っていけ」「俺はいいからおまえこそ…」。事実を知った自衛官は「東北にある慈愛の精神が、必ず東北を復興させる」と福島の友人に告げたそうだ。

被災地を支援する歌「虹を架けよう」では、「僕らを育てた多賀城に、東松島に…、宮城県に虹を架けよう、僕らが大好きな東北に虹を架けよう」と高らかに歌い、会場の手拍子を誘った。そして、さとうさんが作詞作曲した東北文化学園の学園歌「輝ける者」で、トークショーの幕を閉じた。

パネルディスカッション　復興への三つの課題

【パネリスト】
東北文化学園大学総合政策学部准教授　坂本　直樹氏
河北新報社論説委員会副委員長　原谷　守氏
東北文化学園大学医療福祉学部看護学科准教授　北山　玲子氏
アイリスオーヤマ株式会社　社長室マネジャー　大友　清之氏
【コーディネーター】
東北文化学園大学総合政策学部長　地域連携センター長　三木　賢治氏

被災時の生活用品　冊子に　北山氏

自然と共生　東北が先陣を　原谷氏

21世紀型産業　集積進めよ　坂本氏

創造的復興目指す　政策を　大友氏

パネリスト

大友　清之氏

北山　玲子氏

原谷　守氏

坂本　直樹氏

コーディネーター

三木　賢治氏

パネルディスカッションに先立ち、医療福祉学部看護学科の助教、野村実佳氏の指導で行われた、名取市の仮設住宅訪問のボランティア活動の報告が行われた。報告したのは看護学科2年の佐藤真紀さん、佐藤真希さん、黒田紗恵子さん

三木　復興を加速化させていくためのアイディアや克服すべき課題について伺いたいと思います。東北文化学園大学では多くの学生、教職員がボランティアに取り組んでいますが、北山さんは最近、石巻の仮設住宅で意識調査を実施したそうですね。

北山　8月中旬から9月上旬にかけて、石巻市の訪問支援相談員13人にアンケートにご協力いただく形で、仮設住宅の現状を調査しました。その結果浮かび上がったのが家族の崩壊や独り暮らし世帯の増加です。「過疎や入院生活を余儀なくされる人も増えています。新たな生活基盤を作ろうにも見通しが立てられない」という悲痛な声もありました。また、コミュニティー内の絆を作り上げる困難さも伝わってきました。

三木　原谷さんが今回の震災で最も強く感じられたのはどんなことですか。

原谷　哲学者の梅原猛さんは、「原発の事故は天災であり、人災であり、文明災でもある」と言っています。欲望を重んじてきた西洋文明や、科学技術で自然を克服できるという近代思想が、しっぺ返しを受けたということです。科学万能の右肩上がりの思想から、自然と共存の思想に変えていく。その先頭に立って行けるのは東北人です。

■□■

三木　経済活動への影響はどうでしたか。

坂本　東北地方の資本ストックがダメージを受けたことで、隣接する関東圏や東海エリアの産業にも大きな影響が見られました。皮肉なことに震災により、東北地方が日本経済にも世界経済にも大きな貢献を果たしてきたことが明らかになりました。

三木　大友さんは民間企業の立場で復旧状況をどのようにとらえていますか。

大友　復旧して昔に戻せば問題が解決するかというと、そうはいきません。合理化が進めば雇用の面ではなかなか厳しい。創造的な復興という形で進めなければ、東北の将来はないと考えます。

坂本　ハイブリッド車の生産を大衡村の工場で増産するような話もあります。21世紀型産業が東北地方に集積すれば企業の集積を促し、雇用を生み出すという好循環をもたらす可能性もあります。

大友　九州や関西などでは震災の記憶が薄れてきて、経済界の一部からは国の予算が東北にばかり配分されることの不満の声が出始めました。私たちはもっと被災地の状況を発信していかなければいけません。

三木　風評被害という問題もありますね。

坂本　宿泊旅行統計調査によると、今年の4月から6月の間に東北地方を訪れて宿泊した外国人の数は、震災前の2010年と比べ55.9%も減りました。今なお風評被害が問題になっているのは、これからの東北の経済を考えるうえで大変なことです。

原谷　放射能に対し、日本人は特に敏感です。原発事故の政府の初期対応がまずかったと思います。データが隠されたことにより、一般の人は専門家の言うことも、政府がやっていることも信頼できなくなっている。不信が今回の風評被害の背景にあると思っています。

三木　政府の対応が後手後手に回っているような気がしていますが…。

原谷　中央政権は被災現場から遠く、スピード感がない。道州制が敷かれていたらよかったと強く思います。千年に一度の災害なら、千年に一度の大改革をやればいい。従来の発想にとらわれずに進むことができるかどうか。日本は問われています。

■□■

三木　復興への三つの課題と、タイトルに掲げましたので、皆さんにそれぞれ挙げていただきたいと思います。

原谷　一つは復興の加速です。そのためには、自治体の職員の人材確保が課題になります。もう一つは働く場所の問題です。特区や優遇税制などを活用し、雇用をつくっていくことです。三つ目は防災対策で、復興とともに進めていかなければなりません。

大友　当社社長の大山が代表幹事を務める仙台経済同友会や、在仙の経済団体からは様々な提言をしています。一つは思い切った政策、思い切った対応が必要だということです。例えば、津波の被害があった仙台空港から仙台港にかけての一帯を国際物流の特区にしたり、需要が高まる介護の分野を見据え、最先端の国際介護や看護の専門の大学や施設を持ってくることも考えられます。また、民間企業が行政サイドとタッグを組み、人材支援など思い切ったバックアップ体制を進めることも必要です。そして3点目として、若い人の人材育成を挙げたいと思います。経済界として、東北を引っ張っていこうという志を持つ若者の、背中を押すような活動をしていきたいと考えています。

坂本　まずリスクへの対応を制度的に確立し、東北地方が経済活動を行う場として安全であることを理解してもらうことが大事です。水産資源を生かした水産業の復興も考えなければなりません。観光面では県境を越えた広域連携や、被災地の状況を語り継ぐための被災地ツーリズムのようなやり方が考えられます。

北山　ボランティア活動をしながら感じているのは防災意識の温度差です。被害の少なかった内陸部では防災意識が薄れてきています。復旧・復興支援と並行し、次の災害に備えた防災支援に取り組んでいかなければなりません。今私たちは学生と一緒に、被災経験を生かした生活用品のアイディアなどを冊子にまとめています。完成したら皆さまの近くに伺い、防災について共に考える機会をつくりたいと思っています。

三木　問題点は浮き彫りになってきたような気がしますが、道なお険しというのが現状です。私たちがまずできることとして、大震災や被災した方々のつらさや悲しみを忘れずに、次世代へ教訓として引き継いでいくことから心掛けていきたいと思います。

【主催】学校法人東北文化学園大学、河北新報社
【後援】宮城県、仙台市、宮城県教育委員会、仙台市教育委員会、NHK仙台放送局

学校法人 東北文化学園大学 震災復興支援事業
被災地の学生が唱う
秋の第九コンサート
2012年11月11日 SUN
川内萩ホール
開場 14:30　開演 15:00

ソリスト
菅　英三子　ソプラノ
永井　和子　メゾソプラノ
竹田　昌弘　テノール
ジョン・ハオ　バリトン

合唱
東北文化学園 混声合唱団
東北大学 混声合唱団
岩手大学教育学部音楽科 OB 有志

指揮
篠﨑　靖男

オーケストラ
仙台フィルハーモニー管弦楽団

演奏曲目
ブラームス　大学祝典序曲
ベートーヴェン　交響曲第九番合唱付

入場無料
往復はがきの往信の裏面にお名前・郵便番号・ご住所と、ご来場される人数をお書きの上、下の宛先までお申込みください。
申込締切 10月25日
【宛先】〒981-8551 仙台市青葉区国見6-45-1 （学）東北文化学園大学「秋の第九コンサート」参加申込係

後援：文部科学省　宮城県　宮城県教育委員会　仙台市　仙台市教育委員会　岩手県　岩手県教育委員会　東北文化学園大学同窓会　東北文化学園専門学校同窓会　NHK仙台放送局

主催：学校法人 東北文化学園大学

学部が連携しあい総合的に学べる大学。
東北文化学園大学

科学技術学部
人間環境デザイン学科　知能情報システム学科
総合政策学部
総合政策学科
医療福祉学部
リハビリテーション学科
理学療法学専攻　作業療法学専攻
言語聴覚学専攻　視覚機能学専攻
看護学科　保健福祉学科
保健福祉専攻　生活福祉専攻

一般推薦（Ⅰ期）
出願期間：11月1日(木)～11月9日(金)
試験日：11月17日(土)
合格発表：11月26日(月)
一般推薦（Ⅱ期）
出願期間：12月6日(木)～12月20日(木)
試験日：1月8日(火)
合格発表：1月11日(金)
AO入試（書類選考方式Ⅱ期）
第一次選考出願期間：11月21日(水)～29日(木)
第一次選考通知：12月1日(土)
第二次選考出願期間：12月3日(月)～8日(土)
第二次選考：12月13日(木)～15日(土)
合格発表：12月21日(金)
その他、指定校、一般選抜、センター試験、自己推薦、社会人特別選抜、大学院入試、編入学試験等の詳細はホームページをご覧ください。

10月1日より願書受付中！
東北文化学園専門学校

医療・福祉・こども・医療事務
臨床工学科・視能訓練士科・こども未来科・介護福祉科・福祉コミュニケーション科・社会福祉科
診療情報管理士科・医療秘書科・医療情報管理科
建築・インテリア・環境
建築科・インテリア科・福祉住環境デザイン科
環境エクステリア科・バイオ環境科・建築士専攻科

Ⅱ期入試
出願期間：10月25日(木)～11月12日(月)
試験日：11月17日(土)　合格発表：11月26日(月)
Ⅲ期入試
出願期間：11月19日(月)～12月11日(火)
試験日：12月15日(土)　合格発表：12月21日(金)
選考区分
専願入学（対象：臨床工学科・視能訓練士科）
併願入学（対象：こども未来科・介護福祉科）
一般入学（対象：臨床工学科・視能訓練士科・こども未来科・介護福祉科）
一般・推薦入学書類選考（対象：上記以外の設置科）

修学支援
震災により被災した入学希望者の方への授業料免除等の特別措置制度
震災被災に限らず経済的困難者に対する授業料等の減免制度　ほか
詳しくはホームページをご覧ください。

〒981-8551　仙台市青葉区国見6-45-1　TEL022-233-8173　http://www.tbgu.jp
お問合せ　東北文化学園 進学センター　0120-556-923（ココロノクニミ）